

經營學部

履修要項

昭和 57 年度

駒澤大學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(木) 积尊降誕会
 10日(土) 入学式(学部・短大・大学院)
 12日(月) } 新入生オリエンテーション
 14日(木) }
 13日(火) } 在校生成績発表
 (学部・短大・大学院)
 14日(水) } 授業開始
 15日(木) } 在校生成績質疑応答
 17日(土) }
 21日(水) } 1年次生単位履修届受付
 22日(木) }
 23日(金) } 天皇誕生日 } 2・3・4年次生
 29日(火) } 単位履修届受付
 30日(金) } (学部により受
 付日が異なる)
 5月1日(土) 祝禱日
 3日(月) 憲法記念日
 4日(火) 研修日(全学休業)
 5日(水) こどもの日
 19日(水) }
 28日(金) } 2・3・4年次生健康診断
 6月1日(火) 祝禱日
 10日(木) 卒業論文論題提出〆切
 7月1日(木) 祝禱日
 12日(月) } 中間試験
 15日(木) } (授業平常通り)
 17日(土) }
 19日(月) } 前期定期試験(前期終了科目)
 (授業休講)
 20日(火) }
 21日(水) } 夏期休暇第1日

後 期

- 9月13日(月) 授業再開
 14日(火) 前期定期試験欠試届(追試申込)
 提出〆切
 15日(水) 敬老の日
 16日(木) 外国語指定届受付(22日まで)
 (仏教・文(除英米文)・法学部
 及び短大英文の1年次生、経
 済学部の2年次生)
 16日(木) } 前期定期試験成績発表および
 } 再試験申込受付
 17日(金) }
 23日(木) 秋分の日
 27日(月) } 前期追・再試験(授業平常通
 } り)
 28日(火) }

- 29日(水) 両祖忌
 10月1日(金) }
 } 祝禱日 } 社会学科(1年次生)・
 } 歴史学科(2年次生)・
 } 専攻コース指定届受付
 2日(土) }
 4日(月) } 達磨忌 } 1年次生健康診断
 5日(火) }
 7日(木) } 体育の日
 10日(日) } 第100回開校記念日
 15日(金) } (全学休業)
 16日(土) }
 19日(火) } 前期追・再試験成績発表
 }
 20日(水) }
 11月1日(月) 祝禱日
 3日(水) 文化の日
 21日(日) 瑠山禪師降誕会
 23日(火) 勤労感謝の日
 12月1日(水) 祝禱日 } 転部科試験願書受付
 3日(金) }
 6日(月) 編入学願書受付(14日まで)
 8日(水) 成道会
 10日(金) 卒業論文提出〆切(正午)
 10日(金) 転部科試験
 20日(月) 冬期休暇第1日
 21日(火) 編入学試験

昭和58年

- 1月10日(月) 授業再開
 15日(土) 成人の日
 17日(月) } 定期試験(専門・基礎・教職
 } 科目)
 }
 27日(木) }
 26日(水) } 道元禪師降誕会
 28日(金) }
 2月1日(火) 祝禱日 } 定期試験(一般・外
 } 国語・体育科目)
 5日(土) }
 7日(月) 定期試験欠試届提出〆切
 8日(火) 卒業論文口頭試問(後日掲
 示発表)
 11日(金) 建国記念の日
 15日(火) 涅槃会
 21日(月) 学部4年次生・短大生成績発
 22日(火) 表および追・再試験申込受付
 28日(月) } 学部4年次生・短大
 } 生追・再試験, 学部
 3月1日(火) 祝禱日 } 1・2・3年次生追試
 } 験
 5日(土) }
 19日(土) } 卒業者名簿発表
 21日(月) } 春分の日
 25日(金) } 卒業式・大学院修了式

目 次

| | | |
|------|---------------------|------|
| I | 単位制と学年制 | (2) |
| | 1. 単位と学年 | (2) |
| | 2. 授業科目の単位計算 | (2) |
| | 3. 授業科目の区分 | (2) |
| II | 卒業に必要な単位数と学士号 | (3) |
| | 1. 卒業に必要な単位 | (3) |
| | 2. 学 士 号 | (4) |
| III | 授業科目の履修方法 | (5) |
| | 1. 一般教育科目の履修方法 | (5) |
| | 2. 外国語科目の履修方法 | (6) |
| | 3. 保健体育科目の履修方法 | (8) |
| | 4. 基礎教育科目の履修方法 | (10) |
| | 5. 専門教育科目の履修方法 | (10) |
| | 6. 随意科目の履修方法 | (12) |
| | 7. 再履修科目の履修方法 | (12) |
| | ※コード番号について | (13) |
| IV | 履修科目の登録(履修届)とその作成順序 | (16) |
| | 1. 履修科目の登録 | (16) |
| | 2. 履修届記入上の注意 | (17) |
| | 3. 履修届の作成順序 | (18) |
| V | 試験および成績評価 | (19) |
| | 1. 定期試験 | (19) |
| | 2. 中間試験 | (19) |
| | 3. 追・再試験 | (19) |
| | 4. 成績評価・単位認定 | (20) |
| | 5. 進級基準 | (20) |
| | 6. 受験者心得 | (20) |
| VI | クラス制およびクラス主任 | (22) |
| VII | 教職課程・資格講座 | (22) |
| VIII | 事務取り扱いについて | (23) |
| IX | 届書・願書について | (25) |
| X | 各種証明書取扱い窓口 | (26) |
| | 講 義 内 容 | (27) |

I 単位制と学年制

1. 単位と学年

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、授業科目を履修することにより、各授業科目に一定の基準によって与えられている単位を修得することである。従って、各入学年度の履修要項に定められている卒業に必要な単位を4年以上（7カ年をこえてはならない）の在学期間中に修得すれば卒業の資格が得られる。

しかしながら、本学では単位修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目で配当されているから、単位制と学年制の総合された学修制度といえる。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1 単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は、教室内における授業時間と、教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なる。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）
 - (a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目
 - (b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
 - (c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

II 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数

A 56年度以降入学生適用

| 授 業 科 目 の 区 分 | | 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計 | 合 計 |
|---------------|-----------|-------|---------|----|-------|
| 一般教育科目 | 人 文 分 野 | 4 | 16 | 36 | 142以上 |
| | 社 会 分 野 | 3 | 12 | | |
| | 自 然 分 野 | 2 | 8 | | |
| 外国語科目 | 第 1 外 国 語 | 4 | 8 | 16 | |
| | 第 2 外 国 語 | 4 | 8 | | |
| 保健体育科目 | 講 義 | 1 | 2 | 4 | |
| | 実 技 | 1 | 2 | | |
| 基 礎 教 育 科 目 | | 1 | 4 | 4 | |
| 専門教育科目 | 必 修 | 3 | 12 | 82 | |
| | 選 択 | 18 | 70 | | |

B 53～55年度入学生に適用

| 授 業 科 目 の 区 分 | | 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計 | 分 計 |
|---------------|-----------|-------|---------|----|-------|
| 一般教育科目 | 人 文 分 野 | 4 | 16 | 36 | 142以上 |
| | 社 会 分 野 | 3 | 12 | | |
| | 自 然 分 野 | 2 | 8 | | |
| 外国語科目 | 第 1 外 国 語 | 4 | 8 | 14 | |
| | 第 2 外 国 語 | 3 | 6 | | |
| 保健体育科目 | 講 義 | 1 | 2 | 4 | |
| | 実 技 | 1 | 2 | | |
| 基 礎 教 育 科 目 | | 1 | 4 | 4 | |
| 専門教育科目 | 必 修 | 4 | 14 | 84 | |
| | 選 択 | 18 | 70 | | |

C 52年度以前の入学生に適用

| 授 業 科 目 の 区 分 | | 科 目 数 | 修 得 単 位 | 計 | 合 計 |
|---------------|-----------|-------|---------|----|-------|
| 一般教育科目 | 人 文 分 野 | 4 | 16 | 36 | 142以上 |
| | 社 会 分 野 | 3 | 12 | | |
| | 自 然 分 野 | 2 | 8 | | |
| 外国語科目 | 第 1 外 国 語 | 4 | 8 | 14 | |
| | 第 2 外 国 語 | 3 | 6 | | |
| 保健体育科目 | 講 義 | 1 | 2 | 4 | |
| | 実 技 | 1 | 2 | | |
| 基 礎 教 育 科 目 | | 1 | 4 | 4 | |
| 専門教育科目 | 必 修 | 5 | 16 | 84 | |
| | 選 択 | 17 | 68 | | |

2. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、経営学士の称号が与えられる。

Ⅲ 授業科目の履修方法

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない)
- ハ. 各学年に配分された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年で履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

人文分野 4 単位ずつ 4 科目 計 16 単位 }
 社会分野 4 単位ずつ 3 科目 計 12 単位 } 合計 9 科目 36 単位
 自然分野 4 単位ずつ 2 科目 計 8 単位 }

※2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

| 分野 | 授業科目 | 単位 | 履修科目数 | 修得単位 | 計 | 備考 |
|------|--------------------|----|--------------------------------------|------|----|-------------------------------|
| 人文分野 | 宗教学Ⅰ (1年次必修) | 4 | 「宗教学Ⅰ」 ・「宗教学Ⅱ」の2科目を含めて 4科目選択必修 | 16 | 36 | 教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする |
| | 宗教学Ⅱ (2年次必修) | 4 | | | | |
| | 哲学 | 4 | | | | |
| | 論理 | 4 | | | | |
| | 倫理 | 4 | | | | |
| | 文歴史 | 4 | | | | |
| 社会分野 | 法学憲法 (日本国憲法2単位を含む) | 4 | 3科目選択必修 | 12 | 36 | 教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする |
| | 社会学 (2年次) | 4 | | | | |
| | 地理学 | 4 | | | | |
| | 統計学 (2年次) | 4 | | | | |
| | 文化人類学 | 4 | | | | |
| 自然分野 | 自然科学概論 | 4 | 2科目選択必修 | 8 | 36 | 教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする |
| | 数学 | 4 | | | | |
| | 心理学 (2年次) | 4 | | | | |

※「宗教学Ⅰ」の授業は木曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の大学手帳を参照)で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・独語・仏語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。ただし、56年度以降入学生は第1外国語が英語、第2外国語は他の外国語となる。

| 履修年次 | 第1外国語 | | 第2外国語 | |
|------|-------|-----|--------|------|
| | 科目数 | 単位数 | 科目数 | 単位数 |
| 1年次 | 2科目 | 4 | 2科目 | 4 |
| 2年次 | 2科目 | 4 | 2(1)科目 | 4(2) |
| 計 | 4科目 | 8 | 4(3)科目 | 8(6) |

※()内の数字は55年度以前の入学生に適用

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目で4科目8単位を必修とする。

| 授業科目 | 単位 | 科目内容 | 履修科目数 | 備考 |
|----------|----|----------------|---|-------------------|
| 英語 1G | 2 | 文法 | 1G・1R 2科目を必修とする。ただし英会話もしくは英語LLで2科目中の1科目を代替できる。56年度以降入学生は第1外国語となる。 | LL (ランゲージ・ラボラトリー) |
| 英語 1R | 2 | 講読 | | |
| 英会話 | 2 | | | |
| 英語 LL | 2 | 視聴覚教材を使用した語学教育 | | |
| 独語 1G | 2 | 文法 | 5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1R 2科目を必修。56年度以降入学生は第2外国語となる。 | |
| 独語 1R | 2 | 講読 | | |
| 仏語 1G | 2 | 文法 | | |
| 仏語 1R | 2 | 講読 | | |
| 中国語 1G | 2 | 文法 | | |
| 中国語 1R | 2 | 講読 | | |
| スペイン語 1G | 2 | 文法 | | |
| スペイン語 1R | 2 | 講読 | | |
| ロシア語 1G | 2 | 文法 | | |
| ロシア語 1R | 2 | 講読 | | |

※「英語1R」の授業は木曜日に玉川校舎で行う。

2 2年次の履修

A 56年度以降入学生適用

1年次で履修の2カ国語を、それぞれ2科目ずつ計8単位必修とする。

第1外国語（英語を2科目4単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 | 備 考 |
|------------|-----|---------|-----|
| 英 語 2 A I | 2 | 講 読 | |
| 英 語 2 A II | 2 | 〃 | |

第2外国語（1年次で履修の英語以外の1カ国語を2科目4単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 | 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 |
|-----------|-----|---------|-------------|-----|---------|
| 独 語 2 A I | 2 | 講 読 | スペイン語 2 I A | 2 | 講 読 |
| 〃 2 A II | 2 | 〃 | 〃 2 A II | 2 | 〃 |
| 仏 語 2 A I | 2 | 〃 | ロシア語 2 A I | 2 | 〃 |
| 〃 2 A II | 2 | 〃 | 〃 2 A II | 2 | 〃 |
| 中国語 2 A I | 2 | 〃 | | | |
| 〃 2 A II | 2 | 〃 | | | |

B 55年度以前の入学生に適用

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし、2 A I・2 A IIの2科目4単位、他方を第2外国語として2 Bを1科目2単位、計3科目6単位を必修とする。

第1外国語（指定した外国語の2 A I・2 A IIの2科目4単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 | 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 |
|-----------|-----|---------|-------------|-----|---------|
| 英 語 2 A I | 2 | 講 読 | 中国語 2 I A | 2 | 講 読 |
| 〃 2 A II | 2 | 〃 | 〃 2 A II | 2 | 〃 |
| 独 語 2 A I | 2 | 〃 | スペイン語 2 A I | 2 | 〃 |
| 〃 2 A II | 2 | 〃 | 〃 2 A II | 2 | 〃 |
| 仏 語 2 A I | 2 | 〃 | ロシア語 2 A I | 2 | 〃 |
| 〃 2 A II | 2 | 〃 | 〃 2 A II | 2 | 〃 |

第2 外国語（指定した外国語の2 Bを1科目2単位必修）

| 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 | 授 業 科 目 | 単 位 | 科 目 内 容 |
|---------|-----|---------|---------------|-----|---------|
| 英 語 2 B | 2 | 講 読 | 中 国 語 2 B | 2 | 講 読 |
| 独 語 2 B | 2 | // | ス ペ イ ン 語 2 B | 2 | // |
| 仏 語 2 B | 2 | // | ロ シ ア 語 2 B | 2 | // |

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次生で英語2科目のうち、1科目を英語LLで代替しようとする者は、受講人員に制限があるため、単位履修届提出前にLL事務室まで申し出ること。（7号館4階）
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

| | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
|-----|---------|-----|---------|
| 講 義 | 保健体育理論 | 2 | 前期または後期 |
| 実 技 | 体育実技 | 2 | |

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義、実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義、実技とも木曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択

し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期ともつぎの履修時間に含まれている数種目の中から、決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名、担任名は授業時間表による科目名 担任名を記入すること。選択した種目名また種目の担任名ではない。

| 木・2 | | | 木・3 | | |
|-----|----|---|------|----|---|
| ハンド | ◎村 | 松 | ハンド | 村 | 松 |
| 陸上 | 森 | 本 | サッカー | 秋 | 田 |
| 庭球 | 牧 | 野 | 庭球 | 牧 | 野 |
| 体操 | 三 | 幣 | 体操 | ◎三 | 幣 |
| 空手 | 高 | 橋 | 空手 | 高 | 橋 |
| 相撲 | 館 | 岡 | 相撲 | 館 | 岡 |

再履修クラス（2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で行う）

| 火・3 | |
|-----|------|
| 球技 | ◎宮 沢 |
| 剣道 | 上 山 |

| 水・1 | | 水・2 | |
|-----|------|-----|------|
| 球技 | ◎原 山 | 球技 | ◎原 山 |
| 剣道 | 上 山 | 剣道 | 上 山 |

※◎印は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが実技の重要な意味であることから本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および

身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い、毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

へ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれの担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

- (a) 盗難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。
- (b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見ておくこと。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次1科目4単位を必修とする。

| 履修年次 | 授業科目 | 単位 | 備考 |
|------|-------|----|----|
| 1年次 | 経済学概説 | 4 | |

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目に分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって充分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

必修科目

- A. 56年度以降の入学生適用 3科目12単位
- B. 53～55年度の入学生適用 4科目14単位
- C. 52年度以前の入学生適用 5科目16単位

| 1 年 次 必 修 | | | 2 年 次 必 修 | | |
|-----------|-----|--------------------|-----------|-----|--------------------|
| 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
| 簿 記 学 | 4 | 旧 簿 記 | 経 営 学 | 4 | |
| プロゼミ I | 2 | 55年度以前の入 学生のみ必修 | 会 計 学 | 4 | |
| | | | プロゼミ II | 2 | 52年度以前の入 学生のみ必修 |

選択科目

- A 56年度以降の入学生は70単位以上
 B 53～55年度の入学生は70単位以上
 C 52年度以前の入学生は68単位以上

| 1 年 次 選 択 | | | 3 年 次 選 択 | | | 3 年 次 選 択 | | |
|-----------|-----|-----|-----------------|-----|-----|-----------|-----|-----|
| 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
| プロゼミ I | 2 | ※イ | 経 営 統 計 | 4 | | 演 習 I | 4 | |
| 2 年 次 選 択 | | | 経 営 情 報 論 | 4 | | 3・4年次選択 | | |
| 経 営 史 | 4 | | 経 営 組 織 論 | 4 | | 外 書 講 読 | 4 | |
| 経 済 学 原 理 | 4 | | 経 営 技 術 論 | 4 | | 4 年 次 選 択 | | |
| 経 営 管 理 論 | 4 | | 商 業 経 営 論 | 4 | | 銀 行 経 営 論 | 4 | |
| 原 価 計 算 | 4 | ※ハ | 公 益 企 業 論 | 4 | | 財 政 学 | 4 | |
| 企 業 形 態 論 | 4 | | 保 険 経 営 論 | 4 | | 国 際 経 済 論 | 4 | |
| 統 計 原 論 | 4 | | 金 融 論 | 4 | | 貿 易 経 営 論 | 4 | |
| 日 本 経 済 史 | 4 | | 貿 易 政 策 | 4 | | 会 計 監 査 | 4 | |
| 民 法 I | 4 | | 商 法 I | 4 | | 税 務 会 計 | 4 | |
| プロゼミ II | 2 | ※ロ | 民 法 II | 4 | | 証 券 市 場 論 | 4 | |
| 3 年 次 選 択 | | | 経 済 政 策 | 4 | | 日 本 経 営 史 | 4 | |
| 経 営 学 史 | 4 | | 経 営 科 学 | 4 | | 商 法 II | 4 | |
| 経 営 労 務 論 | 4 | | 簿 記 理 論 特 別 講 義 | 4 | | 労 働 法 | 4 | |
| 経 営 財 務 論 | 4 | | ア メ リ カ 経 営 学 | 4 | | 演 習 II | 4 | |
| 管 理 会 計 論 | 4 | | 経 営 分 析 論 | 4 | | | | |
| 簿 記 原 理 | 4 | | 日 本 経 済 論 | 4 | | | | |

※イ 55年度以前の入学生はプロゼミ I を必修とする。

ロ 52年度以前の入学生はプロゼミ II を必修とする。 ハ 旧工業簿記及び原価計算

6. 随意科目の履修方法

随意科目は2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

| 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 | 授 業 科 目 | 単 位 | 備 考 |
|---------|-----|-----|-----------|-----|-----|
| 比較思想特講 | 4 | | 日 本 語 F | 2 | |
| 独 語 F | 2 | | 独 語 FLL | 2 | |
| 仏 語 F | 2 | | 仏 語 FLL | 2 | |
| 中 国 語 F | 2 | | 中 国 語 FLL | 2 | |
| スペイン語 F | 2 | | スペイン語 FLL | 2 | |
| ロシア語 F | 2 | | ロシア語 FLL | 2 | |

※日本語Fは留学生対象の科目で1年次生より履修できる。

7. 再履修科目の履修方法

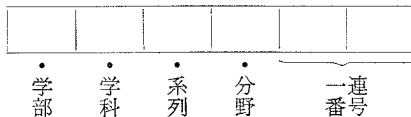
- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 簿記学，プロゼミⅠ（55年度以前の入学生），プロゼミⅡ（52年度以前の入学生）の再履修については次のとおり。
- (a) 「簿記学」を再履修するものは「簿記学再クラス」を履修すること。
 - (b) 「プロゼミⅠ」また「プロゼミⅡ」を再履修するものは、授業時間表の中から任意のクラスでそれぞれ履修すること。なお必修コード番号は授業時間表の〔注意〕欄を参照のこと。
- ホ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ヘ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分



(a) 学部, 学科番号は学生番号欄での説明のとおり

(b) 系列, 分野区分について

| 授業科目の区分 | 系列番号 | 分野番号 |
|---------|------|-------------|
| 一般教育科目 | 0 | |
| 人 文 分 野 | | 1(必修)・2(選択) |
| 社 会 分 野 | | 3 |
| 自 然 分 野 | | 4 |
| 基礎教育科目 | 1 | 5 |
| 外国語科目 | 2 | |
| 第 1 外国語 | | |
| 第 2 外国語 | | |
| 保健体育科目 | 4 | |
| 体 育 実 技 | | 1 |
| 保健体育理論 | | 2 |
| 専門教育科目 | 5 | |
| 必 修 科 目 | | 1.2.3 |
| 選 択 科 目 | | 5.6.7.8 |
| 随 意 科 目 | 7 | |
| 再履修科目 | 8 | |
| 課程・講座科目 | 9 | |
| 必 修 科 目 | | 1 |
| 選 択 科 目 | | 2 |
| 教 科 科 目 | | 3.4.5.6.7.8 |

2 学生番号について

学生番号は8桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 学生番号区分

| | | | | | | | |
|-----------------------------------|-----------------------|-------------|-------------|------|--|--|--|
| | | | | | | | |
| ・ 入 学 年 度 (西 曆) | ・ 学 籍 異 動 | ・ 学 部 | ・ 学 科 | 一連番号 | | | |

(例) 正規学生番号

| | | | | | | | |
|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------|---|---|---|
| 2 | 0 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| ・ 82 年 入 学 | ・ 事 故 な し | ・ 経 営 学 部 | ・ 経 営 学 科 | 一連番号(1番) | | | |

ロ. 学籍異動の番号について

0—正規の学生

1—留年

2—転部科

3—編入

4—留年をして転部科

転部科・編入をして留年

(例 I) 留年学生番号

| | | | | | | | |
|------------------------|-------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|---|---|---|
| 1 | 1 | 5 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| ・ 81 年 入 学 | ・ 留 年 | ・ 経 営 学 部 | ・ 経 営 学 科 | 一連番号(11番) (留年のつど変わる) | | | |

(例 II) 編入学生番号 (56年度3年編入)

| | | | | | | | |
|------------------------------------|----------------------------|-------------|-----------------------|-----------------------|-----------|---|---|
| 0 | 3 | 5 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| ・ 履 修 要 項 度 (80) | ・ 適 用 年 度 入 | ・ 編 入 | ・ 経 営 学 部 | ・ 経 営 学 科 | 一連番号(22番) | | |

3 学部・学科の番号表

| 学部・学科名 | 学部番号 | 学科番号 | 学部・学科名 | 学部番号 | 学科番号 |
|--------|------|------|--------|------|------|
| 仏教学部 | 1 | | 法学部 | 4 | |
| 禅学科 | | 1 | 法律学科 | | 1 |
| 仏教学科 | | 2 | 政治学科 | | 2 |
| 文学部 | 2 | | 経営学部 | 5 | |
| 国文学科 | | 1 | 経営学科 | | 1 |
| 英米文学科 | | 2 | 短期大学 | 8 | |
| 地理学科 | | 3 | 国文科 | | 1 |
| 歴史学科 | | 4 | 英文科 | | 2 |
| 社会学科 | | 5 | 放射線科 | | 3 |
| 経済学部 | 3 | | | | |
| 経済学科 | | 1 | | | |
| 商学科 | | 2 | | | |

IV 履修科目の登録

(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数は次表のとおりとする。

| 年 次 | 新規履修科目数 | 再履修を含む科目数 | 課程・講座登録者 科目数 |
|-------|----------|-----------|-----------------|
| 1 年 次 | 15 | — | — |
| 2 年 次 | 5 以上12以内 | 17 以 内 | 17 以 内 |
| 3 年 次 | 5 以上12以内 | 17 以 内 | 17 以 内 |
| 4 年 次 | 2 以上14以内 | 17 以 内 | 17 以 内 |

(注) 随意科目は制限科目数の枠外とする。

II) 登録上の注意

- イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。
(提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口相談すること)
- ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。
- ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。
- ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。
- ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。
- ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読み，間違いのないように登録すること。

